

29 年度指導方法の課題分析と具体的な改善策及び補充指導などの計画 教科 社会

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を高める授業を意識しているが、発言回数が多い生徒と少ない生徒で差が激しい。 ・定期考査では、記述問題が苦手な生徒が多かった。授業内でグラフや写真を活用し、自分の考えを書く機会を増やす必要がある。 ・生徒間で教え合ったり、話し合ったりする機会を増やした結果、知識の定着が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4 人班での発表を積極的に取り入れる。班の代表として発表する生徒を授業ごとに代える。 ・授業内で、資料やグラフを見るだけではなく、そこから読み取り、わかったことをまとめる等の作業を増やす。 ・一問一答の知識だけでなく、単語の意味を自分の言葉で説明する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストで合格点以下の生徒を対象に再テストを行う。 ・より一層、言語活動を充実させ、生徒に広い支店で考える力を身につけさせる。 ・ワークブック等で、補充的な学習内容と、発展的な学習内容を、それぞれ個々の生徒の理解内容や進捗の状況により、生徒個々に応じて進めていく。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力を高める授業になるよう工夫をしている。生徒に考えさせる時間を十分に与えたり、すぐに答えが出ないような「問い」を用意している。 ・定期考査に関しては、内容や難易度は一般的であるものの、問いかけの仕方が複雑だったりし、平均点が想定よりも低めとなった。 ・DVDの番組を編集して、短いビデオクリップとして導入に利用している。映像は教育効果が高いことがある程度わかったので継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者側が常に社会情勢やニュースに耳を傾け、生徒たちの学習意欲が高まるようなオリジナルな問いを準備したい。 ・生徒が問題を解いてみたくなるような設問を作成したり、図表を活用することで思考が深まるよう改善していく必要がある。 ・どのようなタイプの番組や内容が教育効果が高いのか、検討する必要もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、歴史の年表年代小テストを実施する。 ・後期からは歴史のワークブックを配布したので、定期試験とリンクして、学習意欲を高めたい。 ・生徒がクラスではっきりと自分の考えを発表させるような活動ももりこんでいきたい。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力を養う授業を意識しているが、一方で、考えるベースとなる“知識”を定着させる時間が不十分である。 ・定期考査では、資料やグラフを読み取り、選択したり記述したりする問題が苦手である。授業内で、もっと資料やグラフにふれ、それを読み取る作業をする必要がある。 ・映像や音声など、視聴覚教材をより効果的に使い、意欲関心を高めることが、知識の定着にもつながっていくと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句については板書で色を変えるなどの工夫をしているが、説明をより丁寧に行う。また、説明にあてる時間と、生徒の活動の時間のバランスを考えて授業作りを行う。 ・授業内で、資料やグラフを見るだけではなく、そこから読み取り、わかったことをまとめる等の作業を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに小テストを行い、家庭学習の習慣化や知識の定着を図る。 ・アクティブラーニングを取り入れて、教員だけではなく、生徒同士で学び合い、理解を深める授業作りを行う。 ・ただ提示された資料やグラフを読み取るだけではなく、課題解決のために必要な資料を自ら選び、課題を解決するなど、色々な形で資料を活用した授業作りを行う。